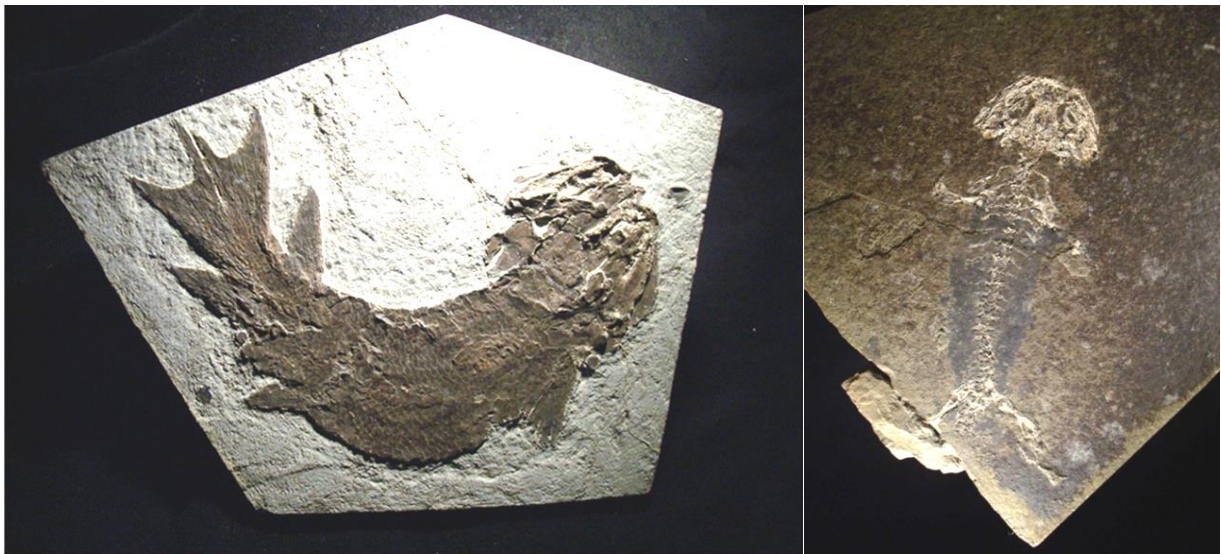


肉鰭類(にくきるい)

地球上に最初に現れた脊椎(せきつい)動物は約5億年前の古生代初期の無顎類(むがくるい)で、それが約4億年前、顎ができて、魚類になりました。魚類は古生代のデボン紀(4億1900万～3億5900万年前)に大発展しました。デボン紀の魚類には、現在の魚類とは系統の異なる板皮類などが多かったですが、系統が同じ軟骨魚類や硬骨魚類もありました。そして、その時代の硬骨魚類のグループに、肉鰭類(にくきるい)というグループが現れました。肉鰭類は胸鰭(むなびれ)と腹鰭(はらびれ)の付け根に足の骨の構造を持ち、胸鰭が前足に、腹鰭が後足になりかかっている魚類で、中にはそれを使い、はうようにして陸上へ進出し始めたものがあります。ユーステノプテロンはその代表的なもので、脊椎動物の進化史上、重要な化石です。魚類の多くは鰓(えら)呼吸しますが、ユーステノプテロンは、化石の研究から鰓呼吸ではなく、肺呼吸をしたと考えられています。なお、現生の肉鰭類にはシーラカンスやハイギョの仲間があり、シーラカンスは鰓呼吸、ハイギョは肺呼吸をします。

そして、古生代の終わりごろの約3億年前に肉鰭類から両生類が進化し、そのすぐ後に両生類からは虫類、および、ほ乳類の祖先の単弓類が進化したと考えられています。



肉鰭類(ユーステノプテロン)の化石(左)と、原始的な両生類(ブランクリオサウルス)の化石(右)

武智泰史(地学担当)

パオちゃんズアイにに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」
は博物館ホームページでカラーで見られるよ!

